

2013年産カリフォルニア・クルミ市況



豊作予想から一転、南部では1割程度減産予想

2013年産カリフォルニア・クルミの収穫量は9月にNASS(米国農業統計局)から昨年並みの49万5千ショートトンと発表されていましたが、いざ収穫が始まると早生種の収穫量が伸びずNASSの予想数量に達しないのではないかとの見方が強まっています。

今期は比較的天候に恵まれていた状況から、豊作とみていた農家が多く、早生種の減産は農家にとって驚きようですが、1月～3月の降雨量が少なかった状況と春先の強風が原因との指摘もあります。

早生種は南部地域での栽培割合が多い状況から、南部ではNASSの予想より1割程度減産するのではないかとみるパッカーもあるようです。

また、サイズはジャンボ/ラージサイズが全体の85%(昨年は79%)を占める模様です。近年の品種改良により年々脱殻時のハーフ率は高くなっている事から、各パッカーでは自然発生するピースサイズが少なくなっており、特にスモールピースの価格は割高に推移する事が懸念されています。

なお、10月8日に発表された出荷レポートによると、今期は収穫が7～10日ほど昨年よりも早かった状況も影響して前年比+23.7%と大幅に増加となっています。

収穫数量の下方修正見込みと旺盛な出荷により、現在の価格はLHP(チャンドラー)でUS\$5.00/LBを突破しており、現地は当面は強気な姿勢を崩さないと思われます。

